



令和5年12月5日（火）

国土交通省

スマートサービスによるWell-beingの改善方策検討WG

KAKOGAWA SMART CITY PROJECT

加古川市 企画部 政策企画課 スマートシティ推進担当係長 陰山

兵庫県 加古川市について



人口：256,931人
世帯：109,079世帯
総面積：138.48km²
(令和5年4月1日時点)

加古川市の地理的特性

- 一級河川加古川の河口部に位置し自然を満喫できる
- 播磨地域の工場地帯の一部を構成
- 神戸や大阪、姫路に短時間でアクセスできる

加古川ならではの魅力づくり

- 身近な自然を活かした魅力づくり
- 産業誘致
- 駅周辺等の拠点の新たな賑わいづくり



碁士のまち



加古川和牛



かつめし



鶴林寺



高御位山

加古川市におけるデジタル技術を用いた主な取組

【見守りカメラ、見守りサービス】

- 市主体で、1,475台（約50台/小学校区）のカメラを設置
- 設置から約4年（H29⇒R3）で犯罪件数が半減
- Bluetooth Low Energyを活用したタグ（発信機）による官民協働の見守りサービスを提供

平成29年 (設置前)	2,926件
平成30年 (設置初年度)	2,407件
令和元年	2,025件
令和2年	1,684件
令和3年	1,433件
令和4年	1,699件

設置前と比較して
約4割減！
1,227件減少



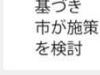
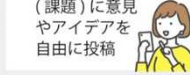
【Decidim (デシディム) の導入】

- 「Code for Japan」と協定を締結し、オンラインの市民参加型合意形成プラットフォームを国内初導入



Decidim (デシディム) は、市民などが意見やアイデアを寄せ、議論し、政策に結びつけていくためにスペイン・バルセロナで生まれたツールです。加古川市はスマートシティを市民の皆さんと作るため、全国で初めて Decidim を導入しました。ユーザ登録すれば誰でも参加できます。市民の皆さん、事業者の皆さん、行政でアイデアを出し合って、よりよいまちをつくりましょう。

- ① ユーザ登録
- ② 色々なテーマ(課題)に意見やアイデアを自由に投稿
- ③ 意見に基づき市が施策を検討
- ④ 施策に反映!



【オンライン申請などの窓口業務改革】

- 約1,100の手続きをオンライン化(R5年度)
- 「書かないワンストップ窓口」の実現



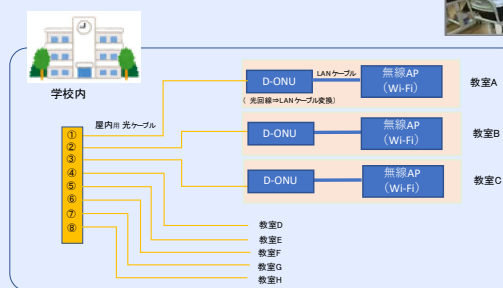
【地上デジタル放送波を用いた災害伝達手段】

- 讀賣テレビ放送(株)の放送波を利用させていただき災害情報等を配信 (Internet Protocol Data Castにより、地上デジタル放送波に加古川市のデータを載せて配信)



【GIGAスクール (各教室ごとの光回線、地域BWA)】

- 各教室ごとに光回線を引き込み、デジタル教科書の利用を見据えた高速通信環境を実現
- 地域BWAにより、教室外でも通信可能に



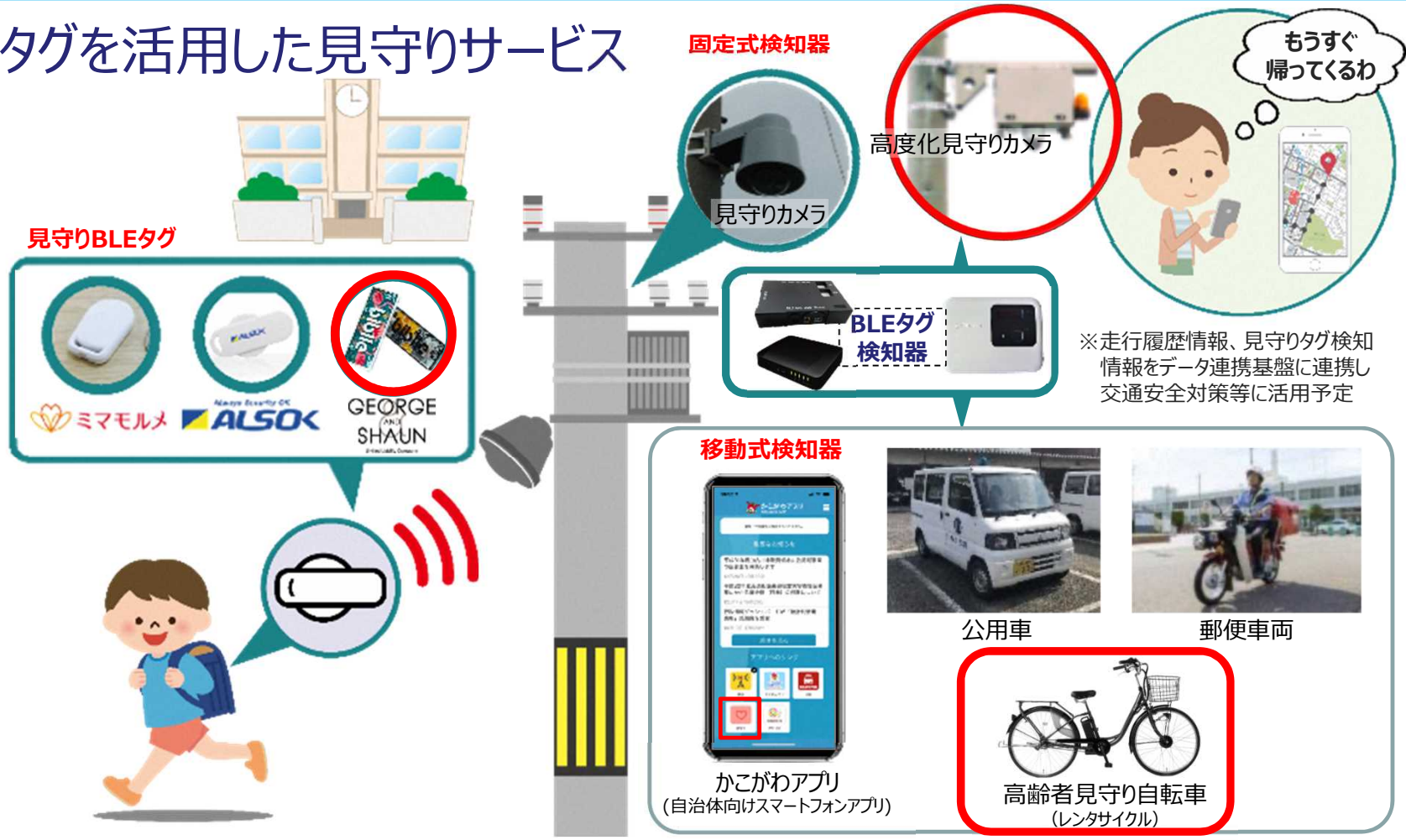
【ワンコイン浸水センサを用いた防災対策の広域連携】

- ワンコイン浸水センサによる水位の迅速な把握、情報発信
- 他市町の水位情報を本市の情報連携基盤で可視化



見守りサービス（官民協働事業）の広域展開

■BLEタグを活用した見守りサービス



見守りBLEタグ

Logos of partner companies: ミマモルメ, ALSOK, GEORGE (AKI) SHAUN.

移動式検知器

かこがわアプリ (自治体向けスマートフォンアプリ)

公用車

郵便車両

高齢者見守り自転車 (レンタルサイクル)



広域連携を見据えた新たなアプリの開発

ワンコイン浸水センサを用いた**広域**防災の取組

- 二十数か所に浸水センサを設置し、水位上昇時には迅速に災害情報を伝達



加古川市の情報連携基盤に他市町の浸水センサの情報を格納し、行政情報ダッシュボードで可視化



Decidimの導入

■Code for Japan と協定を締結（2020.10）Decidimを国内初導入



Decidim（デシディム）は、市民などが意見やアイデアを寄せ、議論し、政策に結びつけていくためにスペイン・バルセロナで生まれたツールです。

加古川市はスマートシティを市民の皆さんと作るため、全国で初めて Decidim を導入しました。

ユーザ登録すれば誰でも参加できます。市民の皆さん、事業者の皆さん、行政でアイデアを出し合って、よりよいまちをつくりましょう。

① ユーザ登録



② 色々なテーマ（課題）に意見やアイデアを自由に投稿



③ 意見に基づき市が施策を検討

④ 施策に反映！



2023.9末現在

ユーザ数 : 2,504

トピック数 : 30

駅周辺の再整備に向けたにぎわいづくり

- JR加古川駅再整備へ向けたワークショップなどで、3Dモデルを活用した動画を作成し、参加者とのイメージの共有をはかりつつ、議論を進めた。

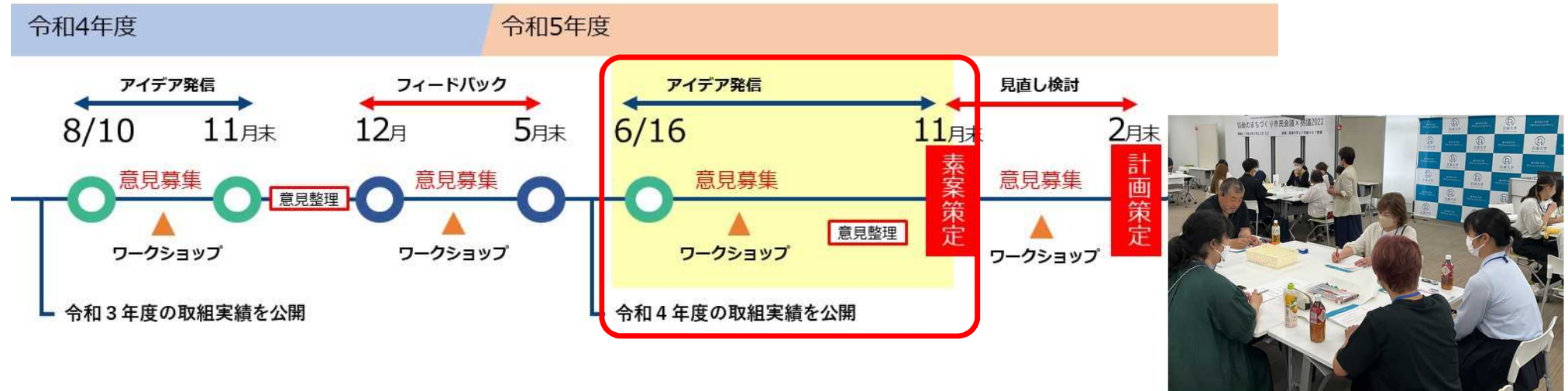


スマートシティ構想の実施状況

■2021年3月に策定した加古川市スマートシティの実施状況

- このまま進めていくべき取組、改善すべき取組、注力すべき基本目標などについて幅広く意見・アイデアを募集
- 2024年度の本構想の見直し、既存取組の改善や今後の取組を検討
- スマートシティの取組を参加者と共有

兵庫大学とともに、「協働のまちづくり市民会議×熟議2023」で議論（6/17熟慮講演会、7/15熟議）



■「チャレンジ」と題して、今年度導入のサービスについて意見募集

- 高齢者見守り自転車による見守りサービスの充実
- さらなる安全安心を目指した見守りカメラの設置

加古川市の目指すもの（理念）

●市民が感じる**幸福感**の向上を目指す

➤人の幸せを構成する要素に、市の施策を通じて貢献する

➤「経済的豊かさを追求すること」も
「人口減少に歯止めをかける」ことも
「スマートシティの取組を進めること」も
それら自体が最終目標ではなく
市民の幸福感の向上を実現するための手段である

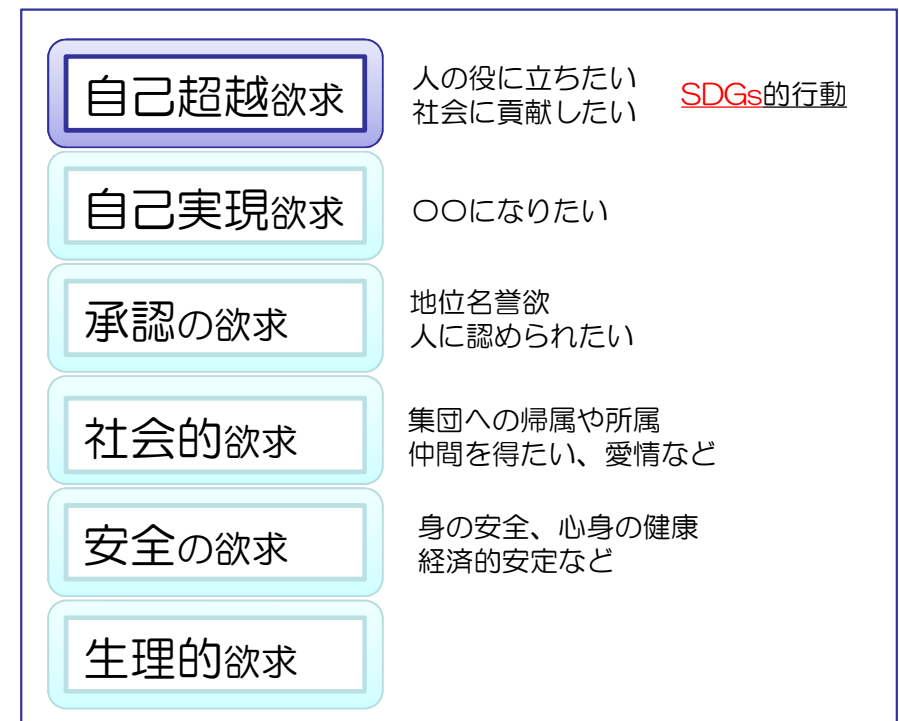
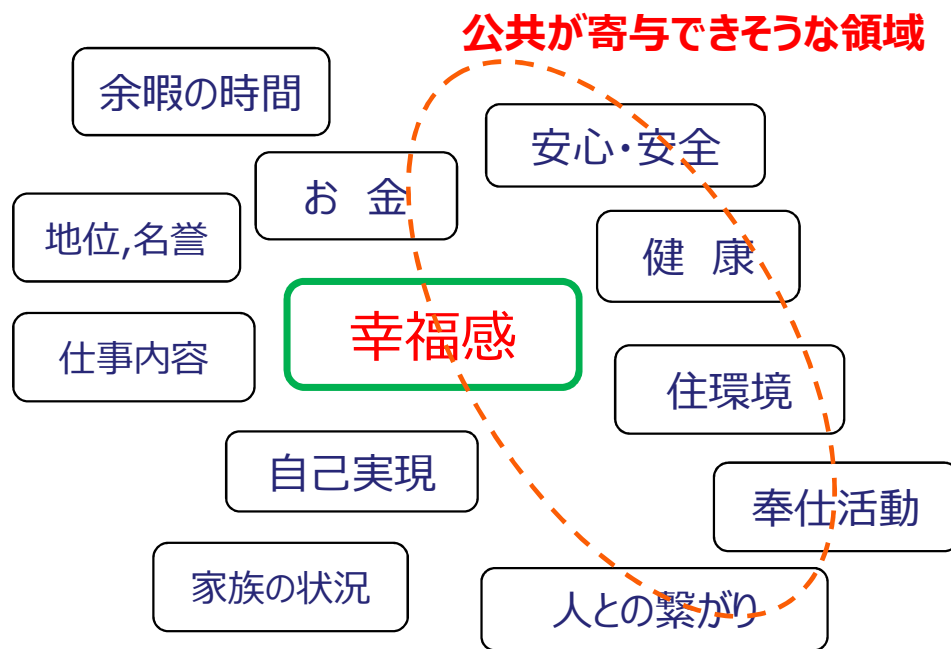
➤人の幸せを、定性的な表現のレベルを超えて
定量的に測れるかどうかが肝要



市民が感じる幸福感の向上を（市政運営の理念）

- 市民が感じる幸福感の向上を目指す。
- 幸福感の向上に寄与しうる様々な要素を見極めつつ、公共政策を通じて寄与できるであろう領域に対し、具体的な取組を展開する。（デジタル化もその手段の一つ、と考える）

⇒ 幸福感やそれに関係する構成要素を定量的に評価できるかどうかが肝要。

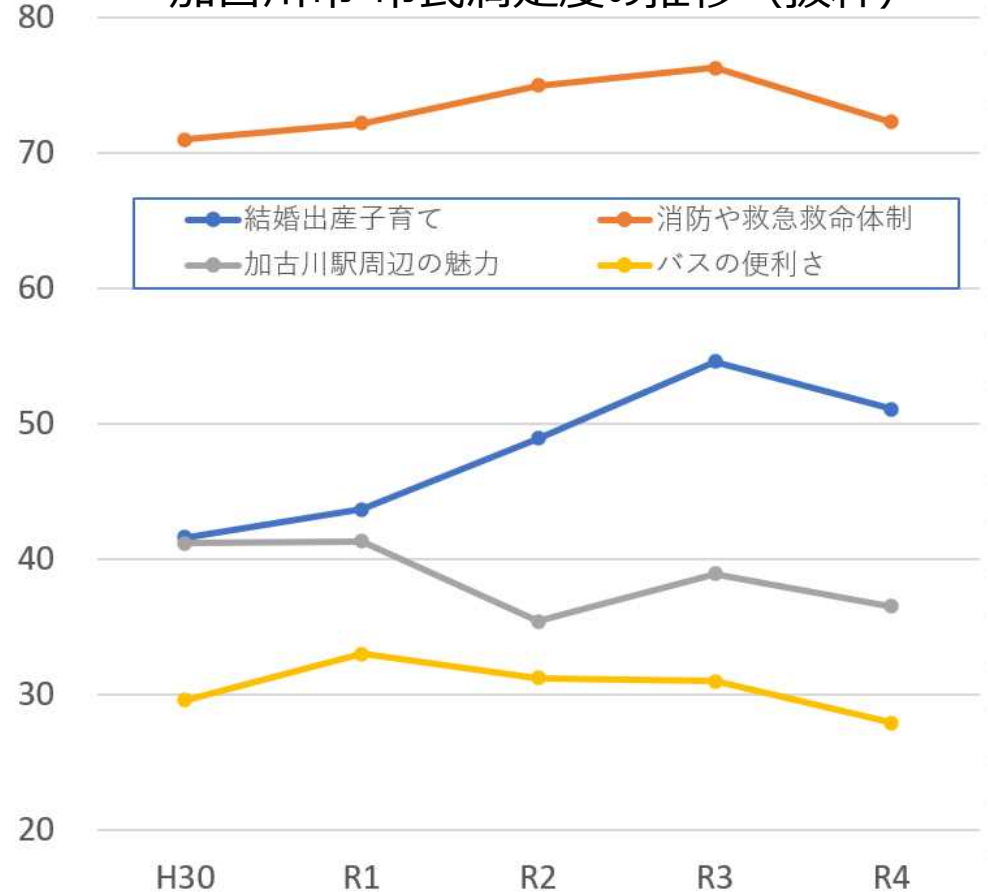


毎年、各分野の市民満足度、重要度を調査

- 47項目の市民満足度や重要度の調査を毎年続けている。
(約1,500サンプル、誤差±約2.3%、信頼度95%)
- しっかりしたサンプル数でデータを取ることで、PDCAサイクルに活用することもできる。

市の施策・事業を通じて、幸福感に寄与するであろう分野の市民満足度を改善できる手応えは得られたが、それによって幸福感を高められているかどうかまでは、確認できていなかった。

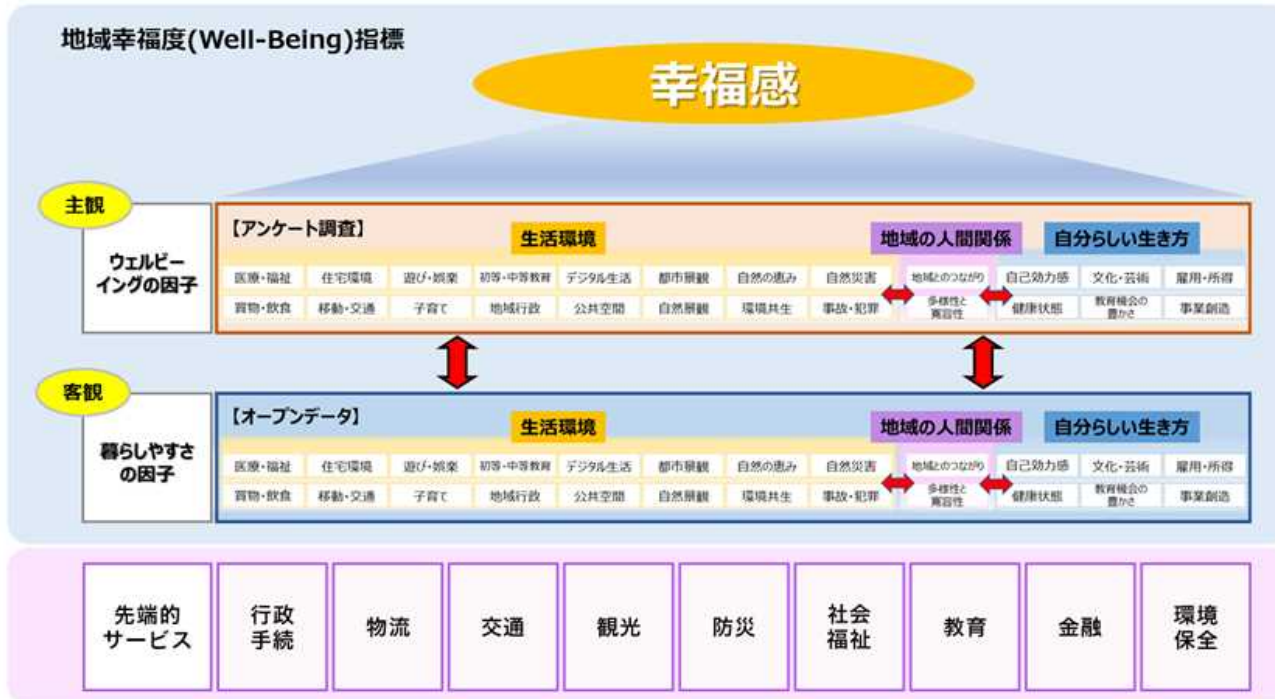
加古川市 市民満足度の推移 (抜粋)



国における新たな指標「LWCI」の導入

- 国の「デジタル田園都市国家構想」において、目指す「心ゆたかな暮らし」（Well-Being）と「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）の実現に向けた取組の指標として、LWCI(*)が導入された。

南雲岳彦氏に「加古川市LWC政策アドバイザー」にご就任いただき、加古川市の市民意識調査にLWC項目を追加（R4～）



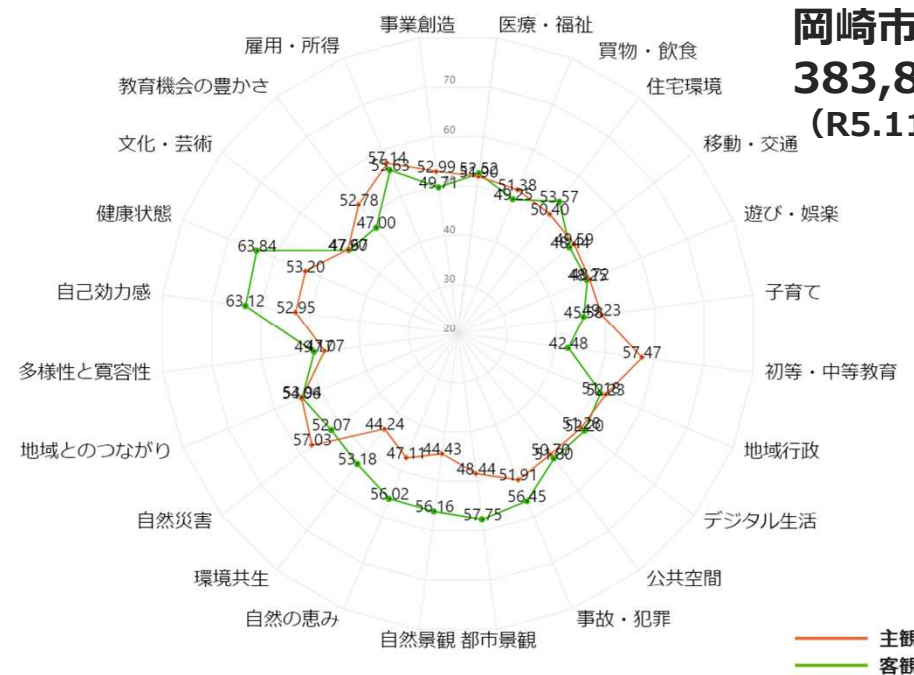
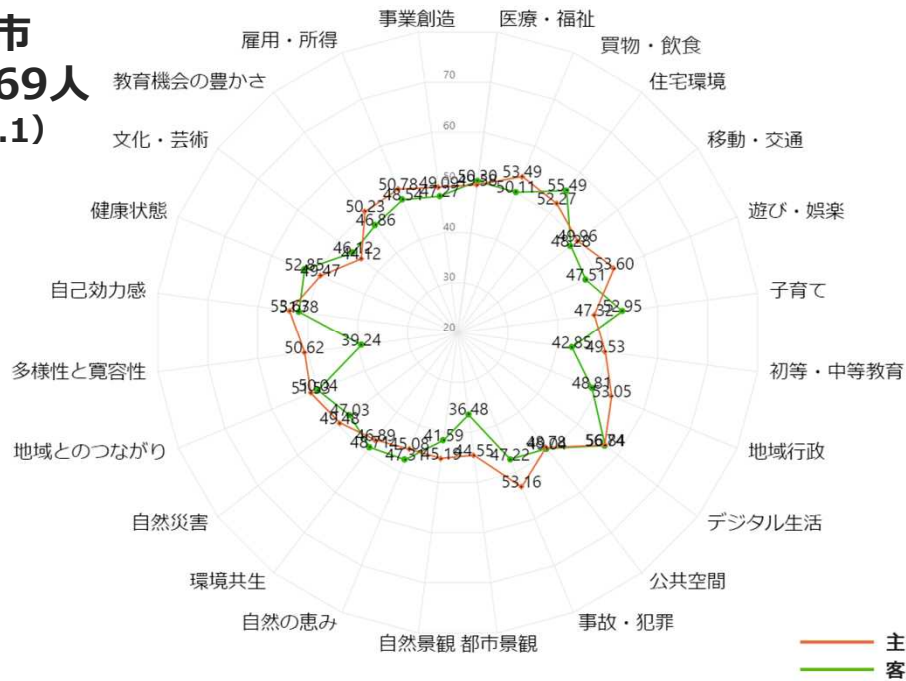
(*) LWCI : Livable Well-being City Indicator by デジタル庁、(一社)スマートシティインスティテュートジャパン 「地域幸福度指標利活用ガイドブック」 <https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>より

論点1 「Well-beingの向上」のため、国が方向性の提示

■ 各自治体の課題は様々なので、分野を特定せずに取り組むべき

加古川市
256,469人
(R5.11.1)

岡崎市
383,802人
(R5.11.1)



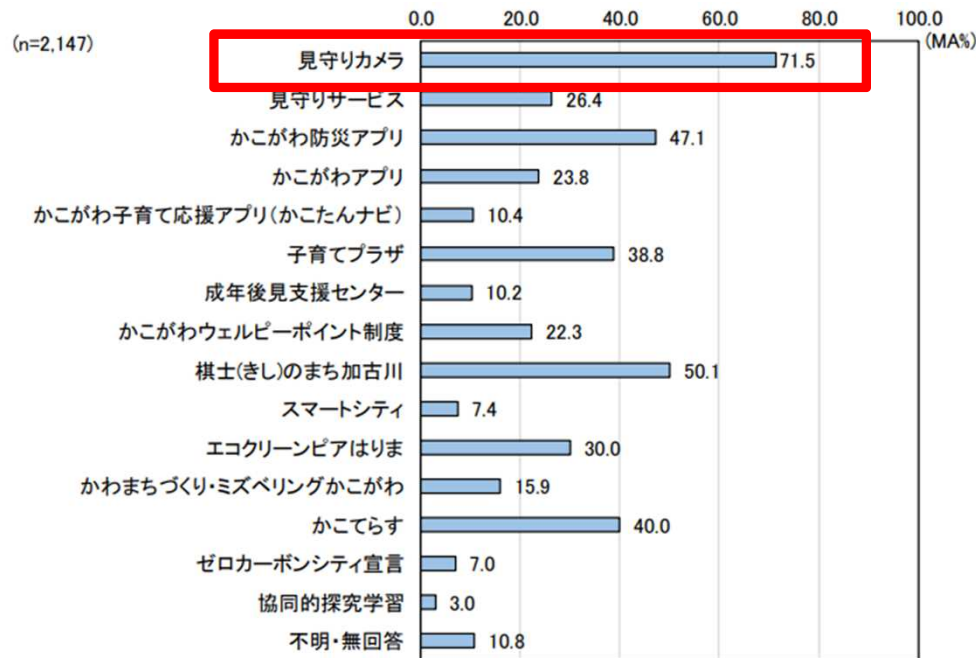
令和5年度Well-Beingアンケートダッシュボード (全国調査) より

■ ベースレジストリとしての基盤整備に関する国と地方の役割分担

- ベースの整備は国、地域の特性にあわせてベースを活用したサービスの検討に対する支援

論点2 スマートサービスの実装化の定義・ゴール

■ 見守りカメラ、スマートシティの認知度（令和4年度市民意識調査結果）



■ 内閣府が示されているガイドラインのアウトカム部分を高めることをゴールと考えるもよいのではないか

※KPIに執着する必要はなく、真摯に受け止めるもの、実態を重視すべき

論点3 スマートサービスが自然と創発されるエコシステム形成



■地域により抱える課題は様々、近隣自治体であっても課題は異なる

- 広域連携に当たっては、共通する課題に対し、スモールで横展開する方法もあるのではないかと
- ※スマートシティ実装化支援事業で進めている取り組みの紹介

■データ、テクノロジー、議論する場 新たなサービスの創出

加古川市スマートシティ構想

基本理念 誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川
～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

スマートシティ推進の5原則

- 透明性とプライバシー保護 (Transparency & Privacy)**
データの利活用にあたっては、市長の皆さまのプライバシーの保護に十分な配慮を行います。また、市の意思決定過程における透明性の確保に努めるとともに、設置する機器に対するプライバシーリスクの潜在的な影響や脅威を評価したうえで設置します。
- 安全・安心・回復性 (Safety, Security & Resiliency)**
自然災害、不慮の事故、情報セキュリティなどによる障害が発生した場合でも、最低限の機能が維持しながら、早期に回復できる能力を確保するように努めます。
- 相互運用性とオープン性 (Interoperability & Openness)**
ICT技術導入の際は、システム間において様々なデータに接続することが可能となる相互運用性を担保しながらエコシステムの実現を図ります。また、データが広く社会において適正に使用されるように、組織間の壁を意識せずデータ利活用が最大限に行われるように努めます。
- 公平性、社会的包摂、社会的影響 (Equity, Inclusion & Societal impact)**
あらゆる人材が能力を最大限発揮し、やりがいを感じられるような社会を実現するために、サービスや機会損失を発生させず誰一人取り残さないように努めます。また、その社会への影響を評価し、市民生活の向上と環境保全に努めます。
- 運用面と財政面の持続可能性 (Operational & Financial Sustainability)**
スマートシティの実現においては、運用面・財政面の両方から持続可能でより効果的・効率的な事業であることを確認しながら実施するように努めます。

スマートシティ推進の基本目標

基本目標1【市民】市民のQOLや利便性を向上するサービス

- いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続の実現
- 誰にでもやさしい窓口環境の実現
- 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信
- 安心して子育てをできるまちづくり
- 高齢者にやさしいまちづくり
- GIGAスクールの推進 (デジタル教育)
- 行政情報の見える化

基本目標2【まち】都市機能の強化や都市課題の解決

- 快適に移動できるまち
- 安全・安心のまちづくり
- 災害に強いまちづくり
- にぎわいのあるまちづくり
- インフラの整備及びメンテナンス

基本目標3【行政】デジタル行政の推進

- 情報のデータ化によるスムーズな窓口対応
- 最新技術による徹底した業務効率化
- どんな時も業務継続を可能とする体制づくり
- 多様なデータの利活用による新たな行政サービスの実現
- スマートシティアーキテクトの育成



加古川市 デジタル技術実証 サポート

概要

地域課題の解決や豊かな市民生活を実現する技術実証プロジェクトを支援します！

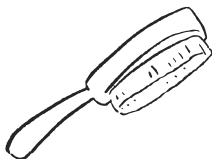
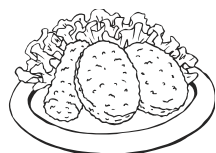
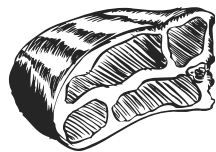
補助額 上限 **200万円**
(対象経費の1/2)

募集締切
7月3日(月)

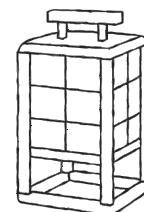


free open-source participatory democracy for cities and organizations

ぜひ、加古川市を応援してください！！



KAKOGAWA CITY



加古川市まちの魅力発信キャラクター
「かこのちゃん」